
蜜ノ味

砂子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蜜ノ味

【Nコード】

N4813C

【作者名】

砂子

【あらすじ】

蜜ノ味は、オムニバス形式で連載していきます。主人公の案内人が、全3つの不幸な話を語る形式です。タイトルの蜜ノ味とは、『人の不幸は蜜の味』からきています。人々のカタルシスの精神にのっとった、なんとも鬱な話です。

プロローグ（前書き）

不幸な話ばかりですので、（だといって一切面白くないわけではありません）ハッピーエンドを好まれる方、もしくは鬱になりたくない方は控えた方がいいかもしれません。

プロローグ

男は震える手で、腕の中で首をかしげる少女の、ふくよかな白い頬を撫でた。完璧だ、今回は他のよりも格段に美しい。こぼれた唾液がぼたりと、彼女のスマイレ色の瞳に落ちる。

「ジャンヌ、出来損ないの姉様達をござらん？」

彼はいささか興奮したような声で、彼女に問いかけた。

彼の視線の先には、折り重なった黒い物体達が無造作に散らばっている。片方しか腕のついていない少女、その上に積まれた美しい金色の髪をもつ少女の唇は、眼から滴り落ちるエメラルドの液体で濡れている。他にも、右足と左足を逆につけられた少女や、大きく凹んでしまった頭を持つ少女が、火のついてない暖炉の前で寒々と横たわっていた。

「……醜いだろう？」

どれもこれも僕が失敗してしまったのがいけないのだけれど。

男は染料のこびり付いたエプロンを脱ぎ、それを人形達の山へと放り投げる。毛布の代わりに、ではない。彼女達の山が物置の代わりなのだ。

「こっちはマリーシア。目のところを削りすぎてしまって、僕好みの美しい顔立ちでなくなってしまったのさ。」

「そっちはエルシカ。彼女はお気に入りだったんだけどね、飽きちゃったんだ。」

「ああ、奥のやつは駄作だよ。初期のやつ。あんまり首が回らなく

てね、無理やりやったら折れちゃった。」

ぼそぼそと薄暗い地下室で、腕の中の人形にひたすら話しかける彼の姿は、まるで『普通の人間』ではない。無造作に伸びた黒い髪に、灰色の薄汚れた肌、焦点のあつてない緑色の眼。

どちらかといえば、その姿は化け物屋敷の蛹人形に近かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4813c/>

蜜ノ味

2010年11月17日03時08分発行